



平成 17 年 3 月期 第 1 四半期 財務・業績の概況 (連結)

平成 16 年 8 月 2 日

上場会社名 **塩野義製薬株式会社**

(コード番号: 4507 東・大・名(各一部)・福・札)

(URL <http://www.shionogi.co.jp>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 塩野元三 TEL (06)6202-2161
責任者役職・氏名 広報室長 吉野公通

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ①会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
たな卸資産の評価等で一部簡便な方法を採用しております。
- ②最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
- ③連結および持分法の適用範囲の異動の有無 : 有
連結(新規) 1社(油日アグリサーチ株)

2. 平成 17 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第1四半期	47,771	△ 3.4	5,190	—	5,192	—	5,071	—
16年3月期第1四半期	49,475	—	—	—	—	—	—	—
(参考)16年3月期	200,485		20,292		17,586		2,203	

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第1四半期	14 . 67	—
16年3月期第1四半期	—	—
(参考)16年3月期	6 . 06	—

(注) 売上高以外の四半期経営成績の開示は当四半期から行っているため、前年同四半期については記載しておりません。また、売上高におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期における業績は、売上高 477 億 71 百万円(前年同期比△3.4%)、営業利益 51 億 9 千万円、経常利益 51 億 92 百万円、四半期純利益 50 億 71 百万円となりました。主力の医療用医薬品の売上高は、平成 16 年 4 月に業界平均 4.2%の薬価引き下げが実施されたこともあり、前年同期に比べ減少となりました。さらに、平成 15 年 10 月に営業譲渡いたしました工業薬品の影響もあり、売上高全体として減少となりました。

一方、利益面におきましては、事業構造改革や退職給付制度改革の取組みにより製造費用、販売費及び一般管理費の面でより効率的な運営が見られ、売上高営業利益率、売上高経常利益率ともに 10%台で推移しております。四半期純利益につきましては、当社において平成 16 年 4 月 1 日に退職給付制度の一部を確定拠出年金制度に移行したことに伴い、制度終了による特別利益 35 億 63 百万円の発生が影響しております。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第1四半期	386,871	295,469	76.4	854 . 37
16年3月期第1四半期	—	—	—	—
(参考)16年3月期	376,160	292,187	77.7	844 . 53

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	5,732	△ 2,238	△ 2,176	69,906
16年3月期第1四半期	—	—	—	—
(参考)16年3月期	15,059	△ 8,044	△ 10,340	68,623

(注) 当四半期より四半期財政状態の開示を行っているため、前年同四半期については記載しておりません。

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期末における財政状態としましては、前連結会計年度末と比べて総資産が107億円増加しておりますが、これは主として当社において、前払年金費用が増加したことによるものであります。また、負債合計で、前連結会計年度末と比べて74億増加しておりますが、これは主として賞与引当金の増加等によるものであります。株主資本は前連結会計年度末と比べて32億増加しておりますが、これは利益の発生によるものであります。

当第1四半期末の現金及び現金同等物は699億6百万円となり、前連結会計年度より12億73百万円増加しております。営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が88億18百万円ありましたが、確定拠出年金への移行に伴う支払があり、全体としては57億32百万円のプラスとなりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等があり、22億38百万円のマイナス、財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払、借入金の返済があり、21億76百万円のマイナスとなりました。

(参考)四半期個別経営成績等の概況 (平成16年4月1日～平成16年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
17年3月期第1四半期	42,533 △ 6.3	4,020 —	4,505 —	4,698 —
16年3月期第1四半期	45,373 —	— —	— —	— —
(参考)16年3月期	183,274	16,168	15,458	1,335

	総資産	株主資本
	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	376,691	289,705
16年3月期第1四半期	—	—
(参考)16年3月期	366,113	286,468

(注) 売上高以外の四半期個別経営成績等の開示は当四半期から行っているため、前年同四半期については記載しておりません。また、売上高におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

[参考]

平成17年3月期の連結業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	96,000	8,000	6,500
通期	203,000	27,000	18,000

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 52円05銭

[業績予想に関する定性的情報等]

現時点におきましては、平成16年5月17日発表の通期業績予想を変更していません。

平成17年3月期の個別業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金		
				中間	期末	
	百万円	百万円	百万円	円銭	円銭	円銭
中間期	87,500	7,000	6,000	4.25	—	—
通期	185,500	25,000	17,000	—	4.25	8.50

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 49円15銭

上記予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。競合状況等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測数値と大幅に異なる可能性があります。

1. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当四半期 (平成 17 年3月期第1四半期)		(参考) 平成 16 年3月期	
	金 額	百分比	金 額	百分比
		%		%
I 売 上 高	47,771	100.0	200,485	100.0
II 売 上 原 価	18,938	39.6	79,856	39.8
売 上 総 利 益	28,833	60.4	120,629	60.2
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 (うち研究開発費)	23,642 (7,723)	49.5 (16.2)	100,337 (29,807)	50.1 (14.9)
営 業 利 益	5,190	10.9	20,292	10.1
IV 営 業 外 収 益	1,016	2.1	2,416	1.2
V 営 業 外 費 用	1,014	2.1	5,121	2.5
経 常 利 益	5,192	10.9	17,586	8.8
VI 特 別 利 益	3,717	7.8	16	0.0
VII 特 別 損 失	91	0.2	12,424	6.2
税金等調整前四半期(当期)純利益	8,818	18.5	5,178	2.6
法人税、住民税及び事業税	1,660	3.5	2,101	1.1
法人税等調整額	2,074	4.4	844	0.4
少数株主利益	11	0.0	28	0.0
四半期(当期)純利益	5,071	10.6	2,203	1.1

2. (要約)四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当四半期 (平成17年3月期第1四半期末)		(参考) 平成16年3月期		増減金額 (△金額は減)
	金 額	構成比	金 額	構成比	
(資産の部)		%		%	
I 流動資産					
1. 現金及び預金	76,339		75,044		1,295
2. 受取手形及び売掛金	69,972		71,459		△ 1,487
3. 有 価 証 券	22,159		23,059		△ 900
4. た な 卸 資 産	32,598		33,549		△ 951
5. そ の 他	11,751		11,101		650
貸倒引当金	△ 60		△ 64		4
流動資産合計	212,761	55.0	214,150	56.9	△ 1,389
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
(1) 建物及び構築物	32,902		33,035		△ 133
(2) そ の 他	38,342		38,957		△ 615
有形固定資産合計	71,245	18.4	71,993	19.1	△ 748
2. 無形固定資産	4,997	1.3	5,187	1.4	△ 190
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	82,780		80,787		1,993
(2) 前払年金費用	11,104		—		11,104
(3) そ の 他	4,148		4,209		△ 61
貸倒引当金	△ 166		△ 166		0
投資その他の資産合計	97,867	25.3	84,829	22.6	13,038
固定資産合計	174,110	45.0	162,010	43.1	12,100
資 産 合 計	386,871	100.0	376,160	100.0	10,711

(単位：百万円)

科 目	当四半期 (平成17年3月期第1四半期末)		(参考) 平成16年3月期		増減金額 (△金額は減)
	金 額	構成比	金 額	構成比	
(負債の部)		%		%	
I.流動負債					
1.支払手形及び買掛金	10,741		10,346		395
2.短期借入金	368		1,033		△ 665
3.1年以内償還予定社債	20,000		—		20,000
4.未払金	10,077		6,414		3,663
5.引当金					
(1)賞与引当金	9,776		6,343		3,433
(2)その他の引当金	644		710		△ 66
6.その他	10,443		9,920		523
流動負債合計	62,052	16.0	34,768	9.2	27,284
II固定負債					
1.社債	—		20,000		△ 20,000
2.引当金					
(1)退職給付引当金	8,325		18,829		△ 10,504
(2)その他の引当金	254		462		△ 208
3.長期未払金	6,839		—		6,839
4.その他	13,719		9,713		4,006
固定負債合計	29,139	7.5	49,005	13.0	△ 19,866
負債合計	91,191	23.5	83,773	22.2	7,418
(少数株主持分)					
少数株主持分	210	0.1	199	0.1	11
(資本の部)					
I 資本金	21,279	5.5	21,279	5.7	0
II 資本剰余金	20,227	5.2	20,227	5.4	0
III 利益剰余金	236,085	61.0	232,589	61.8	3,496
IV その他有価証券評価差額金	21,205	5.5	21,023	5.6	182
V 為替換算調整勘定	△ 1,951	△ 0.4	△ 1,588	△ 0.4	△ 363
VI 自己株式	△ 1,376	△ 0.4	△ 1,343	△ 0.4	△ 33
資本合計	295,469	76.4	292,187	77.7	3,282
負債、少数株主持分及び資本合計	386,871	100.0	376,160	100.0	10,711

3. (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	当四半期 (平成 17 年3月期第1四半期)	(参考) 平成 16 年3月期
		金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益		8,818	5,178
減価償却費		2,177	9,623
売上債権の減少額		1,485	4,705
たな卸資産の減少額		187	7,285
仕入債務の増加(減少)額		399	△ 1,631
その他		△ 6,687	△ 6,606
小 計		6,381	18,555
利息及び配当金の受取額		632	1,490
利息の支払額		△ 206	△ 464
法人税等の支払額		△ 1,074	△ 4,521
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,732	15,059
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券・投資有価証券の取得による支出		△ 1,753	△ 4,586
有価証券・投資有価証券の売却等による収入		1,087	2,227
有形固定資産の取得による支出		△ 1,633	△ 4,404
有形固定資産の売却による収入		188	157
その他		△ 127	△ 1,438
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,238	△ 8,044
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額		65	△ 7,086
長期借入金の返済による支出		△ 738	△ 120
配当金の支払額		△ 1,470	△ 2,936
その他		△ 33	△ 196
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,176	△ 10,340
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 44	456
V 現金及び現金同等物の増加 (減少)額		1,273	△ 2,868
VI 現金及び現金同等物の期首残高		68,623	71,496
VII 連結除外による現金及び現金同等物の減少額		—	△ 50
VIII 合併による現金及び現金同等物の増加額		—	45
IX 新規連結による現金及び現金同等物の増加額		9	—
X 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高		69,906	68,623

4. セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当四半期(平成17年3月期第1四半期)

(単位：百万円)

科 目 \ セグメント	医薬品及びその関連する事業	カプセル事業	その他の事業	計	消去又は全社	連 結
売上高及び営業損益						
売 上 高						
(1) 外部顧客に対する売上高	43,366	2,870	1,533	47,771	—	47,771
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	62	1,110	1,173	(1,173)	—
計	43,366	2,933	2,644	48,944	(1,173)	47,771
営業費用	38,895	2,570	2,291	43,757	(1,176)	42,581
営業利益	4,471	363	352	5,187	3	5,190

(注)

1. 事業区分については、製商品及び役務の種類、販売市場の類似性を考慮し、医薬品及びその関連する事業、カプセル事業及びその他の事業にセグメンテーションしております。
2. 各事業区分に属する主要な製商品及び役務

事業区分	主要な製商品及び役務
医薬品及びその関連する事業	医薬品、診断薬
カプセル事業	カプセルなど
その他の事業	不動産賃貸、物流等のサービス業務 他

平成17年3月期 第1四半期業績 補足資料

平成16年8月2日
塩野義製薬株式会社

セグメント別売上高

< 連結 >

(単位億円)

	16年上期 予定	16年度 予定	16年4-6月 実績	15年4-6月 実績	対前年 増減率	対上期 進捗率
医薬品及びその関連する事業	890	1,885	434	455	4.9	48.7
医療用医薬品	820	1,740	401	427	6.1	48.9
一般用医薬品	35	70	15	18	14.5	44.5
診断薬	17	33	9	10	4.1	57.4
工業所有権等使用料収入	18	42	8	0	-	47.8
カプセル事業	55	115	28	28	3.1	52.2
その他の事業	15	30	15	11	38.4	102.2
工業薬品	0	0	0	5	-	-
不動産賃貸、その他	15	30	15	6	158.1	102.2
合計	960	2,030	477	494	3.4	49.8

< 単体 >

	16年上期 予定	16年度 予定	16年4-6月 実績	15年4-6月 実績	対前年 増減率	対上期 進捗率
医薬品及びその関連する事業	875	1,855	425	448	5.2	48.6
医療用医薬品	805	1,710	391	420	6.8	48.6
一般用医薬品	35	70	15	18	14.5	44.5
診断薬	17	33	9	10	4.1	57.4
工業所有権等使用料収入	18	42	8	0	-	47.8
工業薬品	0	0	0	5	-	-
合計	875	1,855	425	453	6.3	48.6

主要製品売上高(単体)

医療用医薬品

(単位億円)

品名	16年上期 予定	16年度 予定	16年4-6月 実績	15年4-6月 実績	対前年 増減率	対上期 進捗率
医療用医薬品 計	805	1,710	391	420	6.8	48.6
フロモックス	150	350	72	80	10.1	47.8
フルマリン	88	172	43	51	15.0	49.0
塩酸バンコマイシン	84	163	40	47	13.8	47.8
リンデロン等外用	53	100	28	26	7.4	52.7
イムネース	51	105	25	23	11.7	49.9
MSコンチン	34	65	17	22	21.3	50.1
クラリチン	30	80	12	10	25.9	41.0
ロンゲス	26	51	13	15	14.9	48.7
ケフラール	22	45	10	13	16.7	47.5
ドブトレックス	18	37	8	10	17.0	45.9
オキシコンチン	10	23	5	-	-	54.6

新製品

クレストール	-	30	-	-	-	-
酢酸セトロレリクス(一般名)	-	3	-	-	-	-

一般用医薬品

品名	16年上期 予定	16年度 予定	16年4-6月 実績	15年4-6月 実績	対前年 増減率	対上期 進捗率
一般用医薬品 計	35	70	15	18	14.5	44.5
セデス類	17	33	7	8	9.3	40.3
ポボンS	7	13	2	4	32.5	34.4

開発品

<国内開発品>

ステージ	開発	起源・開発方法・一般名・申請	薬効・プロフィール
申請中	NS75A	導入 ゼンタリス社（独） Zentaris AG 共同開発 日本化薬 一般名：酢酸セトロレリクス， Cetrorelix 2000年12月申請	体外受精/胚移植施行時における早発排卵防止薬 LHRH（下垂体性腺刺激ホルモン分泌ホルモン） 拮抗薬（注射）。海外データおよびブリッジ ング試験を利用して申請。欧米では承認済。
	SR47436	導入 サノフィ・サンテラボ社（仏） Sanofi Synthelabo 共同開発 プリストル製薬 一般名：イルベサルタン， Irbesartan 2002年10月申請	降圧薬 アンジオテンシン 受容体拮抗薬（経口）。糖 尿病性腎炎適応承認（欧米）。心不全第 相 実 施中（欧米）。プロドラッグでなく活性体。ACE 阻害薬で問題となっている空咳が抑えられ、薬 物相互作用の少なさが期待される。
	塩酸バンコ マイシン	導入 イーライリリー社（米） Eli Lilly and Company 一般名：塩酸バンコマイシン， Vancomycin 2003年3月申請（日本リリー社）	抗菌薬 グリコペプチド系抗生物質。ペニシリン高度耐 性肺炎球菌による敗血症、肺炎、髄膜炎治療薬 への適応拡大（点滴静注）。（MRSA感染症につ いては既に市販）。オーファン指定。
	S-4661	自社 一般名：ドリペネム， Doripenem 2003年9月申請	抗菌薬 カルバペネム系抗生物質（静注）。抗菌スペク トラムが広い（グラム陰性・陽性、緑膿菌）。 腎毒性が低く、中枢作用（痙攣）が他剤と比べて 少ない。
	S-8116	導入 ムンディファーマ社（オランダ） Mundipharma AG 一般名：塩酸オキシコドン， Oxycodone 2004年5月申請	癌疼痛治療薬 塩酸オキシコドン速放製剤（経口）。徐放性製 剤については2003年4月16日承認取得
申請準備中	SCH29851	導入 シェリング・プラウ社（米） Schering-Plough 共同開発 シェリング・プラウKK 一般名：ロラタジン， Loratadine 2004年3Qシェリング・プラウ社申請予定	アレルギー性疾患治療薬 ヒスタミンH1受容体拮抗薬。小児のアレル ギー性鼻炎及び皮膚疾患（アトピー性皮膚炎， 湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症）に伴うそう痒へ の適応拡大（経口）。慢性蕁麻疹，アレルギー 性鼻炎，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒 症）に伴うそう痒の治療薬として既に市販。
フェーズ	LY248686	導入 イーライリリー社（米） Eli Lilly and Company 一般名：塩酸デュロキセチン， Duloxetine 2001年11月申請 2007～2008年に再申請予定	抗うつ薬 SNRI（セロトニン・ノルエピネフリン再取り込 み）阻害薬（経口）。外国の用法・用量を考慮し て、本薬の最大限の有効性を確認するために高 用量で追加試験を実施。
	S-7701	導入 マルナック社（米） Marnac, Inc. 一般名：ピルフェニドン， Pirfenidone 2002年12月申請 2006年に再申請予定	特発性間質性肺炎治療薬 抗線維化剤（経口）。他の線維化疾患へ拡大で ければ大きな市場も期待。オーファン指定。
フェーズ	S-6820	導入 バイオジェン社（米） Biogen, Inc. 一般名：テセロイキン， Tecelakin 商品名：イムネース	抗癌薬 遺伝子組換え型インターロイキン-2製剤。大腸 癌肝転移への適応拡大（注射）。血管肉腫、腎 癌については既に市販。
	NS75A	導入 ゼンタリス社（独） Zentaris AG 共同開発 日本化薬 一般名：酢酸セトロレリクス， Cetrorelix	子宮筋腫治療薬 LHRH（下垂体性腺刺激ホルモン分泌ホルモン） 拮抗薬（注射）週1回製剤。前期第 相終了。

フェーズ 準備中	S-0373	自社	脊髄小脳変性症改善薬, パーキンソン病治療薬 TRH誘導体(経口)。脳内移行が良く薬効持続時間 が長い。国内・海外での開発予定。
	NS75B	導入 ゼンタリス社(独) Zentaris AG 共同開発 日本化薬	前立腺肥大症治療薬 LHRH(下垂体性腺刺激ホルモン分泌ホルモン) 拮抗薬(注射)。4~12週毎に投与するデボ剤。
	EP-013420	導入 エナンタ社(米) Enanta Pharmaceuticals, Inc.	抗菌薬 ケトライド系抗生物質(経口)。

<海外開発品>

ステージ	開発	起源・開発方法・一般名・申請	薬効・プロフィール
フェーズ	S-5751	自社 日本：フェーズ、米国：フェーズ	アレルギー性疾患治療薬 プロスタグランジンD2受容体拮抗薬、世界初。
	S-3304	自社 米国：フェーズ	抗悪性腫瘍薬 マトリックスメタロプロテアーゼ阻害薬(経口)。殺細胞作用を持たず、癌の増殖・転移を抑制する。安全性が高い。
	S-8921	自社 欧州：フェーズ a	高脂血症治療薬 胆汁酸再吸収阻害薬(経口)。腸管の胆汁酸トランスポーター阻害。
	S-3013	共同研究・共同開発 イーライリリー社 (米) Eli Lilly and Company	抗炎症薬 分泌型ホスホリパーゼA2阻害薬(経口)、世界初。慢性炎症性疾患を対象。
フェーズ	S-2367	自社 英国・米国：フェーズ	抗肥満薬 中枢作動薬(経口)。内臓脂肪の蓄積抑制, 血糖値, 血清脂質の改善。安全性が高く, リバウンドのないことが期待される。
	S-3536	自社 英国：フェーズ	変形性関節症 MMP-2, 8, 13選択的マトリックスメタロプロテアーゼ阻害薬(経口)。

<シオノギ - GSK>

ステージ	開発	開発方法・ステージ	薬効・プロフィール
フェーズ	S-8510	シオノギ - GSK 日本：フェーズ、欧州：フェーズ	抗痴呆薬 血管性痴呆、アルツハイマー型痴呆に薬効が期待できる。ベンゾジアゼピン受容体パーシャルインバースアゴニスト(経口)としての抗痴呆薬は世界初。アセチルコリン系、モノアミン系機能亢進による脳賦活作用を示す。
	S-0139	シオノギ - GSK 日本：フェーズ a、欧州：フェーズ	脳血管障害治療薬 急性期脳梗塞の適応は世界初。エンドセリンA受容体拮抗薬(注射)。

<導出品>

開発No.・導出先	導出年月・ステージ	薬効・プロフィール
S-4522 英国アストラゼネカ社へ 導出 AstraZeneca, UK	1998年4月導出 一般名：ロスバスタチン, Rosuvastatin 2001年6月申請(日本を除く世界) 2002年4月申請(日本) 61カ国で承認取得済	高脂血症治療薬 HMG CoA 還元酵素阻害薬(経口)。ゼネカ開発 No. ZD-4522/スーパースタチン
S-1153 米国ファイザー社へ導出 Pfizer, USA	1998年6月導出 フェーズ 実施中 一般名：カプラビリン, Capravirine	抗エイズ薬 非核酸型逆転写酵素阻害薬(経口)
S-4661 米国ペニンシュラ社へ 導出 Peninsula Pharmaceuticals Inc., USA	2003年5月導出 フェーズ 実施中 一般名：ドリベネム, Doripenem	抗菌薬 カルバペネム系抗生物質(静注)

<中止>

RSC-1838	抗エイズ薬 インテグレース阻害薬(経口)。 本薬の開発を中止するが、今後も引き続き、シオノギ-GSKの両社で後継品の開発を進める。
----------	---

2004年5月発表時からの変更点

新規追加	EP-013420 (国内開発品, フェーズ 準備中)
中止	RSC-1838
開発段階	S-8116: 申請準備中 5月28日申請
申請時期	SCH29851: 2004年2Q 3Q (予定効能を拡大したため)